



## 「桧垣本猿楽」で町の文化財産×地域振興を目指す ～大淀町～

大淀町は、奈良県の中央、紀伊半島のほぼ真ん中に位置している。町の南には吉野川が流れ、その背後には吉野の山々が連なり、豊かな緑と清流に恵まれた町である。

同町は、新たな観光資源として、今まで一部の専門家や研究者にしか存在を知られていなかった「桧垣本猿楽」に着目し様々な振興策を実施している。

### ■「桧垣本猿楽」

猿楽は、明治以降「能楽」と呼ばれ、能と狂言の源流である。かつて同町には「猿楽桧垣本座」があり、室町時代から江戸時代にかけて約300年間「大和猿楽四座」（観世、金春、宝生、金剛）とともに活躍していたとされている。特に囃子方に優れた人物を輩出し、観世座とは縁戚関係があった。

その縁で江戸幕府の統制政策により桧垣本の地を離れるときには観世座と合流し、本拠地を江戸に移し、活動の場を全国に広げた。しかし、地元桧垣本では衰退し、桧垣本猿楽の存在はいつしか人々から忘れ去られていった。

### ■「大淀町能楽プログラム」

同町が猿楽の発信に力を入れ始めたのは平成13年から。能楽がユネスコの「第1回世界無形文化遺産」に指定された年に、「吉野魅惑体験フェスティバル感動発見2001」において「桧垣本猿楽」を取り上げた。

町内の小学4年生～6年生を対象とした「ちびっ子能楽」、3回シリーズの「ワークショップ」や「能楽座公演（土蜘蛛）」を開催したところ、予想以上の来町や問い合わせがあり、多くの人々に先人達の業績と歴史的意義を認識してもらう好機となった。

また、その後囃子方の芸祖の系図に「桧垣本」の記載が判明し、「桧垣本猿楽」が現在の能楽囃子方の礎を築いたことがわかってきた。

この成果により平成14年度以降も「桧垣本猿楽」を文化財産として後世に引き継ぐこととなっ

た。同町では「こども」が非常に重要な位置を占めると考え、幼いころから楽しく能楽に触れる環境づくりのステップとして「ちびっ子桧垣本座」を立ち上げた。現在は、全国各地で能・狂言等の伝統芸術を学んでいる子供たちとの交流事業と位置づけられ、「大和猿楽子どもフェスティバル」として続いている。



大和猿楽子どもフェスティバルでの熱演

### ■今後の展開

同町では「桧垣本猿楽」による地域振興に向けて、主に次の3点を重視している。

#### ①イメージの定着

町内外への情報発信を強化し、誰もが気軽に気楽に能楽が楽しめる大淀町のイメージを定着させ、町民の誇りと郷土愛を醸成する。

#### ②全国へのアピール

能楽公演を実施している他の市町村に呼びかけ、ネットワーク構築と情報交換を行い、公演の共同開催ができる環境づくりを行う。

#### ③まちづくりへの波及

能楽を起爆剤とする、地域振興機運の高まりを町全体に波及させ、行政・住民が協力、連携する核となるように展開する。

大淀町では「桧垣本猿楽」を「町の文化財産×地域振興」と位置付けたプログラムとして事業化が図られており、今後も能楽が地域振興の牽引役となってくれることを大いに期待したい。（奥 桂子）